

## 留学生レポート

# 私の留学生活

修士課程教科教育専攻2回生

リュウ ユウ  
劉 勇

2004年4月、私は幸いにも奈良教育大学修士課程に進学することができました。これは私の人生において重要なステップの一つであったと思います。

しかし、二年間の留学生活は楽しいばかりではありませんでした。大学院に入ると、先生から指導して頂いたことや、授業で得た知識を勉強するだけではなく、自ら進んで勉強し、考え、自分の研究を進めることが重要であることに気付きました。このことを気付くに至るまで、私は時間がかかり、悩んだこともありました。

奈良教育大学で、私は先生方や仲間のお陰で様々な知識を得ることができましたが、学生生活で得た一番



小学校の国際理解教育に参加して

の宝物は知識でなく、知識に対しての研究態度や方法だと思っています。最初の私は、研究に対しての見方に、少しいかげんなところがあつたように思います。ところが、先生や先輩、仲間などに支えられて、学校の行事、また研究活動、学術雑誌への投稿などにも積極的に参加していくうちに、自分が段々成長していることを感じるようになりました。奈良教育大学では、ただ学問を教えるだけの大学ではありません。ここは、社会に貢献できる人材を育てる舞台です。

留学生の皆さん、留学生活の中では、つらい涙もあり、幸せの涙もあります。人間は涙があるからこそ、成長することができると私は信じています。最後に、この場を借りて、今まで私の留学生活を支えてくれた皆様に心から感謝したいと思います。どうも、ありがとうございました。

2004年8月24日、奇しくも自分の21回目の誕生日に私は関西国際空港を一人、飛び立ちました。そのとき私は、これからの留学がこんなにも大変になるとは想像もしていませんでした。

私は、以前から興味のある言語学を中心に授業を取りました。アメリカの授業では、小テストが通常毎週のように行われます。さらに、その間にいくつかレポートが課され、他の宿題も出ます。私は、毎日夜8時ごろから2時ごろまで大学内の図書館に通い、授業に受かるため格闘しました。学期の終わりには、早く日本に帰って、日本の大学生に戻りたいと思ったほです。また、文法の授業では、私がアメリカ人のクラスメート

に授業の内容を教えるという奇妙な体験もしました。そうして、何度か徹夜をしながらも最終試験を乗り切り、無事全てのクラスを合格することができました。

遊びの方かというと、友達とバーで飲んだり、ハロウィンパーティー、韓国人留学生に母国で人気のゲームを紹介してもらったりと、楽しい時間を過ごすことができました。また、アッパー・ミシガンでは、特殊なスパイクと鎌のような形をしたアイスピックを持って、凍った10メートルほどの滝に登りました。さらに、テントなどの入った約40キログラムものリュックを背負って山の中で二泊野宿もしました。私以外は全てアメリカ人という環境の中、友達に支えられ、本当に素晴らしい経験をすることができました。

苦しさやつらさも含め、この留学で経験した全てが私の人生の大きな糧となったことは間違いありません。今回、セントラル・ミシガンに留学してきたことを、心から誇りに思います。



ミシガン州でのアイス・クライミング (向かって左端)

## 留学生レポート

# 留学を終えて

総合教育課程生涯学習コース国際理解教育専修4回生

船津 拓己